

西沢先生の思い出

高 田 和 彦

九州大学の増谷さんより「西沢先生が急逝されたのでとりあえずお知らせする」との悲痛な電話を受けたのは9月24日の午後9時過ぎであった。

西沢先生には、私が九大に入学した日に、高等学校の先輩として初めてお目にかかって以来、35年間もの間、学校(高校、大学)、職場(新潟大学)、および、研究生活での後輩として、大変お世話になっただけに、多くの思い出が次から次へと頭の中を駆けめぐるが、それらはすべて良い思い出ばかりであるだけに、改めて、西沢先生の人徳がしのばれ、突然の御逝去がおしまれてならない。

西沢先生は、お名前の通り、大正9年のお生まれで、第5高等学校理甲、九大工学部航空工学科(当時の航空工学科は最も人気のある学科で、現在の有名大学の医学部に入るよりも難しかったそうである)を卒業されたが、当時の日本では、航空に関するものはすべて米軍の命令により廃止されていたために、九大農学部砂防工学教室の副手になられたが、林学に興味を持たれ、林学科に学士入学され、24年に卒業された。当時、九大では、木梨先生が測樹学に統計学の導入を試みようとしておられたが、西沢先生もまた砂防工学よりも統計学に興味を示され、森林経理学教室の助手に就任され、木梨-西沢ラインを結成され新しい測樹学誕生の口火をきられることになった。3年後の27年には新潟大学へ助教授として転任された。30年には林業試験場に転出されたので、高田が後任として新潟大学に行くことになった。その後19年間は林業試験場で研究を続けられ、49年に九大に帰られ、59年3月定年退官されるまで、約10年間林学第1教室の教授として現在活躍中の若手の研究者の育成に尽力された。その後、九州産業大学教養部で生物学を講義され、今度は数式を離れた観点からの生物に興味を抱かれていたようであった。

林業統計研究会は40年に林、石田両先生の発起により結成されたことは皆の知るところであるが、それ以前に、西沢先生を始め、在京の平田、鈴木、大友の諸先生らが中心となり、林業統計に関する研究会の例会を定期的で開催されており、この会が核となって、これを包含する形でできたものである。

西沢先生の思い出としてあるものは、27年から30年前半のものが多い。先生は九州人の特長とでも云うべき、後輩を非常にかわいがってくれる先輩であり、私も2度お宅に泊めて頂いたが、朝5時に起床されてドイツ語を勉強されていたこと、2回目は確か御次男の出産予定日あったのに、ひょっとしたら今夜生まれるかもしれない、その時は手伝えやと云われて泊めていただいとことなどが強烈な記憶として残っている。また、断片的ではあるが、九重調査の時は、ニュージーランドの運転技術をご披露中ジープを路肩から脱輪させ、山の家の全宿泊客を動員して引き上げ

た夜は、さすがのイビキもショボクれていたこと、先生の弁当を食べたさに(先生の母上は福岡女子大の栄養学の教授で、その手作りの弁当は我々をうらやましがらせたものである)計算機を回したこと、コンパの帰りが遅くなり誰かがこわくなり、先生宅までのお供をおおせつかり、その代わりに、母上御自慢のサイダーの御馳走にあずかったこと、九大から博多駅まで歩きながらパチンコの梯子をしたこと、大隅半島の調査で山からおりる時の速かったこと、チミケップの調査で生長錐片のあつというまに測定し、測定し終わるやいなやポイと捨ててしまわれたこと、旭川蜂屋のラーメンを大盛り2杯たいらげたことなど沢山の思い出を残して頂いたことに感謝の念で一杯である。

唯残念なことは、今年春の学会に出席出来ず、また、5月に九大にうかがった時に先生からお招きを受けたが、あいにくその日は私の都合がつかず参上出来なかったことである。

先生は、24日の午前中に庭で草とりをされ、午後、奥様と御一緒にビール飲まれた後おやすみになられ、そのまま大往生されたと聞いている。享年66歳であった。あまりにも若すぎた御逝去であった。

最後に、先生の御冥福をお祈りするとともに、林業統計研究会の将来を見守って頂きたいお願いを申し上げます。

林業統計研究会 御一周 様

時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます
 先般 西澤正久 儀死去に際しましては御懇篤なご弔慰並びに格別の御香志に預り誠に有難く厚く御礼申し上げます
 お蔭様をもらしましてこのほど忌明けの法要相済みました
 つきましては早速拝趨の上御礼申し上げますが略儀乍ら
 書中を以って謹んで御挨拶申し上げます

昭和六十二年十一月

表主

吉西 吉西

田澤 田澤

佳克 龍美
 良 代
 子彦 彦子

敬具